



頑張る
企業

外務省のSDGsに承認された中小企業の 株式会社 エムアンドエムソックス

靴下専業企業のエムアンドエムソックス(大阪市港区弁天5-16-13、南昌義社長)は外務省の持続可能な開発目標SDGsの承認を2月19日に受けた。大企業は環境、気温などの問題に取り組んでいるが中小企業では初めてだ。同社は将来に備え世界にメイド・イン・奈良の靴下を輸出する場合に世界では当たり前となつていくSDGsの実行で外務省の認可を受ける。

創業25年の同社は素材からの独自の糸を素材メーカーとタイアップし製品は奈良産地のメーカーと連携し専門店などにCO₂削減の施策を施したオリジナル商品をウェブカタログとスマホを活用し元気な靴下企業の1社。

社員挙げての環境問題への取り組みは2009年に同社の商品を運ぶ時のトラックや飛行機などから出るCO₂の量を減らすために「アパレルマイレージ」と名付け日本製を消

費者に安心、安全な地産地消を貫く。2016年に環境省の温暖化防止のための国民運動であるCO₂を減らすCOOL CHOICE事務局から賛同証明書を受ける。COOL CHOICEとは未来のためにいま選ぶほうの活動で賛同企業・団体の一覧に同社が掲載される。サステナブル商品は介護福祉士の資格を持つ社員が考案し履き易い靴下「足ラクダさんの靴下」、サトウキビからとれるシュガースクワランを使用した「機能性冷感ソックス」の販売する。

段ボールも使用出来るまで使うことで環境保護。パッケージは紙素材、オフィスのライトはLED、休憩時間は消灯、用紙は裏面を再活用、印刷物は再生紙活、ゴミも分別と社員上げてSDGsに取り組む。南昌義社長は「奈良産地のメーカーの優れた靴下を世界に売り出したい。サステナブル商品の開発で生き残りを図る」と語る。